

2017年度の「林業遺産」に 8件が選定されました！

「林業遺産」は、日本森林学会によって平成25年度から開始された、日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくための試みです。

5年目となった昨年度は、全国から12件の応募があり、その内の8件が「林業遺産」として選定され、登録された林業遺産は全31件に達しました。今回新たに選定された林業遺産には国有林に関する資料や施設なども多く含まれています。

日本森林学会では、今年度以降も選定事業を継続していくこととし、各地からの積極的な応募推薦を受け付けています。情報誌「林野」でも、引き続き定期的に各遺産についてご紹介してまいります。

「林業遺産」についての詳細情報は、日本森林学会のホームページをご参照ください。

<https://www.forestry.jp/activity/forestrylegacy/>



1	矢部村における木馬道と木場作林業	明治43～昭和35年	福岡県八女市矢部村	八女地方における主要な木材搬出方法であった木馬道の構造や搬出作業、村民生活を支えた木場作に関する道具類、資料群、開道記念碑。
2	我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群	明治42年	青森県青森市、五所川原市、東津軽郡外ヶ浜町、同蓬田村、北津軽郡中泊町	動力車による牽引を前提とする森林鉄道で日本で最初に建設されたもので、全森林鉄道の中で最長を誇る。
3	旧帝室林野局木曾支局庁舎および収蔵資料群	昭和2年(建造物)、明治期～昭和初期(資料群)	長野県木曾郡木曾町福島5471-1	近代の木曾地域における林野行政を知る上で重要な建築物である旧帝室林野局木曾支局庁舎「御料館」および林野行政や森林文化を伝える史資料、道具類、写真・絵葉書。
4	日本近代砂防の祖・諸戸北郎博士の設計による溪間工事建造物群	昭和4～昭和11年	愛知県犬山市塔野地大畔	山地からの土砂流出を抑制することを目的として諸戸北郎博士によりデザインされたコンクリート放水路付土堰堤などの溪間工事建造物群。
5	遠山森林鉄道の資料および道具類・遺構群	昭和17年	長野県飯田市南信濃、上村	地元有志によって保全されてきた遠山森林鉄道に関する写真や資料、貨車・客車、隧道や橋梁、石積み擁壁などの遺構を残す線路跡。
6	海部の樵木林業	寛文年間(1661～1673年)	徳島県海部郡美波町、牟岐町 日和佐川、牟岐川各流域	徳島県海部郡において広く実施されてきた常緑広葉樹の択伐林施業で、択伐矮林更新法や、魚骨状の伐採・搬出方法に特徴がある。
7	進徳の森と中村弥六の関連資料群	明治期～大正期	伊那市高遠町	中村弥六自身が農林省林業試験場から外国産樹木の苗木を移植した「進徳の森」と高遠町図書館が収集した中村弥六の林業関連文献。
8	北山林業	室町時代(応永年間1394～1429年)	京都市北区中川北山町ほか	台杉仕立てや一代限り丸太仕立ての林業体系が形成する景観や杉丸太小屋などの建造物、一連の関連資料。